日本史探究 第6回 授業の進め方とポイント

【第6回テーマとEQ】

鎌倉幕府はなぜ滅亡したのか考えよう！

～鎌倉幕府の滅亡から建武の新政へ～

【第6回の解説ポイント】

- ・二度の蒙古襲来を防いだ御家人たちの活躍に対して、十分な恩賞が与えられなかった。
→戦いに勝利しても新たな土地が手に入る戦いではなかったために、恩賞が出せない。
- ・蒙古襲来を防いだ執権北条時宗の死後北条氏の独裁的な政治が強化されたため、御家人の意見が十分に政治に反映されることがなくなり、御家人の不満が高まっていった。
- ・御家人の不満を解消するために徳政令が出されたが、それでも御家人の窮乏化に歯止めをかけることができず、御家人の不満が益々高まる結果となった。
- ・皇位継承問題に対する幕府の対応に不満をもった後醍醐天皇の倒幕計画に、幕府に反発する武士や寺社勢力が味方となり、倒幕の動きが拡大した。
→有力御家人であった足利尊氏も反乱に加わることによって鎌倉幕府が滅亡した。
- ・後醍醐天皇による新たな政治（建武の新政）は、天皇中心の政治の復活を目指したため、倒幕に大きな役割を果たした武士よりも皇族・貴族を重視した政治を進めた。
→倒幕に協力した武士の不満が高まり、足利尊氏を中心に武士の政治の再建をめざす反乱が起こされ、建武の新政は短期間で失敗に終わった。

蒙古襲来によって大きな負担を強いられた御家人たちは、十分な恩賞が得られなかったためにさらに困窮し、幕府に対する不満が高まることとなった。それ以前にも、分割相続による所領の細分化によって次第に窮乏化が進んでおり、そのために徳政令では一時的な解決にしかならなかったことを理解したい。

後醍醐天皇の倒幕計画は二度失敗するが、次第に幕府に反発する勢力からの協力が広がるようになり、有力御家人からも協力者が得られたことによって倒幕に成功することができた。しかし、その倒幕に活躍した武士を軽視する政治を進めたため、建武の新政は短期間で失敗に終わったことを理解したい。

【これまでに出された留学生からの質問】

- ・なぜ永仁の徳政令は一時的な効果しかなかったのですか？

→永仁の徳政令では売却した土地を無償で取り戻すことができたが、そもそも取り戻した土地が分割相続の結果として十分ではなかったうえに、以後の土地の売買や質入れが禁止されたため（のちに再び認められた）、御家人はかえって金融の道を閉ざされ、生活に困窮することになった。